

発行所
群馬県館林市尾曳町6-1
群馬県立館林女子高等学校
印刷所
株式会社
東京広告株



時の流れの中で
同窓会長 仁田 征子

「あいさつ」

同窓会員の皆さまにおかれましては、お元気で過ごされたこととお喜び申し上げます。

コロナ禍の生活が続く中、身近なところに楽しみを見つける毎日です。まん延防止等重点措置の適用が解除される中、鶴生田川の両側の桜も咲き始めました。時間の経つのは早いものです。桜の咲く頃と申しますと、出会いと別れの季節であることと思えます。

4) 年四月から同窓会副会長として、また平成十(1998)年六月から平成二十六年(2014)年五月まで会長として、母校と同窓会の発展のためにご尽力くださいました。その間にPTA会長として三年間、生徒達のことを見守っていただきました。四十年間以上に渡り、ご尽力くださったことに感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

この度、同窓会にとりましても哀しいお別れがありました。それは、去る三月十六日に前会長の宮田澄江様がお亡くなりになったことです。宮田様は、昭和四十九(1974)年三月十日に学校の北門の所の一番古い桜の木が、クビアカツヤカミキリの被害に遭い、伐採されました。植樹から七十年以上が経っていたと思いますが、風雪に耐え元気に登校する生徒達を迎えて



た桜が失われてしまったことに寂しさを感じます。

コロナ禍により、私たちが取り巻く環境は大きく変化しました。人と人が触れ合うことが難しく、孤独を感じることもあるかと思えます。そのような中にあっても工夫を凝らしながら、昨年度、母校の文化祭に参加しました。その時、作品を展示してくださいました方が、宇木武子先生のクラスだったということで、校長室に飾られている宇木先生の日本画の大作「桔梗の庭」を見て、たいへん感動していらつしやいました。母校には恩師や卒業生から寄贈されている絵画・版画・彫刻などいくつも飾られています。そしてその一つ一つにそれぞれの時代を生きてきた方々の作品に込められた思いを感じ取ることができそうです。お近くにお越しの際は、母校に立ち寄



悔いのない一年を

校長 和泉 昇

られてはいかがでしょうか。コロナ禍で様々な行事がなくなり、同窓の人たちの絆が希薄になっていくのではないかと、心の拠り所がなくなっているのではないのでしょうか。皆さまの繋がりに成れないだろうかと、初めての試みですが、会員名簿に記載されている方全員にこの「館女同窓会報」をお届けすることを思いました。高校時代のことを思い出しながら、改めて友との

絆が深まればと思います。同窓会も感謝の気持ちを大切にしながら、これからも会員の皆さまと一緒に行きたいと思っております。

結びになりますが、まだまだ新型コロナウイルス感染症のことは油断できません。それに加え、世界情勢も不安定です。くれぐれも健康にお気をつけていただきたいと思っております。皆さまと笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

今年度、着任二年目を迎えました校長の和泉 昇でございます。どうぞよろしくお願いたします。

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動の充実にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年度一年間、本校生徒の様子を見させていただきました。

まず、「あいさつ」については、やや控えめですができているかと思えます。次に「授業中」については、先生方の指導のもと指示されたことに一生懸命取り組んでいるようです。そして「部活動等」については、コロナ禍で思うようにできなかった場面が多くあったかと思えますが、感染防止対策を徹底して

実施してくれたと思っ
ています。

また、一方で来校されたお客様からも、生徒の言動に対してのお褒めの言葉を数多く頂戴しています。

こうしてみると、申し分のない生徒たちのようにも見受けられますが、いかがでしょうか。もう一つ付け加える必要があるとしたら、それは何だと思えますか。私は、それは「積極性」だと思っ
ています。本当はできるのに遠慮したり、周りに気を遣ってできないふりをしたりしていることではないでしょうか。本当に大事なのは「できる」ではなく、「行動する」ということだと思っ
ています。

小さい子どもが補助輪なしで自転車に乗る練習をする時に、はじめは後ろの荷台を持ってもらわないとうまく漕げませんが、やがて自分一人の力で漕げるようになります。これは、他の場面でも同じだと思っ
ています。

大事なのは自分の力を信じて、失敗を恐れず行動してみることです。高校生活という一生の中でキラキラと

輝く三年間を、是非とも充実したもの
に磨き上げてくださ
い。

そしてもう一つ。自分が何か始めようと思っ
た時、それを助けてくれるのは周囲の人です。その人たちのおかげで、自分はそれを始めることができます。そのような周囲の人への感謝の気持ちを忘れることなく、毎日を計画的に過ごして
ください。一日一日の積み重ねが、やがて大きな花を咲かせます。途中で挫折することのない、強い自分をつくりあげ、悔いのない一年にしてください。

今年度、本校は創立105周年を迎えます。本校が、これからも地域の伝統校としての役割を果たしつづつ、大きく変わっていくこれからの時代にも適応できるよう、校長として学校教育活動の充実に取
り組んで参る所存です。

結びに、同窓会の皆様には今年度も本校の発展のために引き続きご支援を賜りますようお願い
申し上げます。あいなさの言葉とさせていただきます。



ごあいさつ

教頭 猪瀬 康夫

この度の人事異動で教頭として着任いたしました。例年よりも寒かった冬を終え、満開の桜に
出迎えられながら、館林女子高等学校の門をくぐる
ことができました。

私は平成十四年度より平成二十三年
度までの十年間、教諭として館女にお世話になり

ました。その間、クラス担任、学年主任、進路指導主事を次々に経験させていただき、大変充実した十年間でした。明るく素直な生徒たち、そして熱心な先生方と共に過ごした館女での教諭時代は、私の教育者としての原点を形作つたと言っ
ても過言ではあ

りません。

今年度より、以前とは違つた立場で学校運営に携わることとなります。十年ぶりに再び館女の門をくぐり、大変感慨深く、また、職務の重さ
に身の引き締まる思っ
です。同窓会の皆様方には、教諭を務めた当時から大変お世話になりました。微力ながら、しっかり恩返しをしようと努めてまいります。



振り返って思うこと

前教頭 萩野 葉子

月日の経つのは、早いものです。コロナ禍にありながら、一生懸命に学ぶ館女生は、自分をしっかりと見つめて日々の
高校生活を過ごして

いました。振り返れば、さまざまな活動の場で、同窓会の皆様には、いつも温かく支え見守っていただきました。本校は地域の方々からの期待も大きく、館林の地に住む人々の心

の支えであるとともに、地域に根付いた大切な学舎であることを強く感じました。

私にとって三月最後の日、校庭の桜が美しく咲き誇る中、この日も部活動や学習に励む館女生の姿がそここ

にあり、それは、きらきらと輝いて見えました。努力の積み重ねが館女生の力の源となっ

ていることを改めて感じました。

最後にありますが、館林女子高等学校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

とさせていただきます。



五十年ぶりの友誼祭

加藤 和枝 (昭和46年度卒)

五十年ぶりに母校を訪れた日は、素晴らしい晴天でした。受付を通り、玄関にて友の笑顔に迎えられる、同窓会の作品展示会場へ。感激！凄い！手芸・絵手紙・絵画等々の同窓生の作品が飾られていることに驚くとともに、感動しました。

中でも驚いたことは、五十年前に二年間担任していた先生の作品を発見したことでした。そこにいらした館女の先生のお話では、校長室には大きな作品が飾られているとのこと。校長先生や先生方のお陰で、大作「桔梗の庭」の日本画を拝見させていただきました。担任は化学の先生でした。宇木武子先生の大作を拝見できたことは、こ



の少ない喜びでした。すでにお亡くなりになったと聞き、ショックでした。もし、ご存命であったなら、私も絵を始めたことなどをお話ししてみたかったです。

その後、幾つかの教室を回り、ボール投げやゲーム・クイズに参加し、手作りの自販機のジュースを買ったりと楽しい時間を過ごしました。

この素敵な時間を与えてくれた友人にも感謝です。彼女との出逢いは退職後の社会貢献ですが、何と同年で女子校の同級生だったのです。私たちは年を重ねてからの素敵な出逢いを経験しました。また、私が絵をやっていたければ、五十年ぶりの友誼祭に参加することはできませんでした。

教職在職中に千代田町の会議に参加し、そこで町在住の画家田島功一先生と出逢いました。退職後、偶然再会しお誘いを受け、隣町の絵画教室へ通うこととなりました。二年ほど経った頃、新国立美術

館で第一美術協会主催の展覧会に出品し、二点とも入選。一点は奨励賞をいただきました。何も分からなかった私に根気よくご指導下さった先生に感謝するばかりです。上手く描けないことは度々で、嬉しさも苦しみもあります。が無心になれるとても楽しい時間だと思っています。

五十年ぶりの文化祭にお誘いを受けたこと、その文化祭に絵を運び案内してくれた友人。またそのようなお誘いは、絵をやっていたことのお陰。絵は退職頃にお会いした人との出合い。出合い、巡り合わせ、ありがたく感動の一日にしてくれた様々の出合いに感謝するばかりです。また、今後の作品作りのための大きな原動力になる体験でした。

館女の生徒のみなさん、校長先生をはじめ先生方、同窓生のみなさんの益々のご活躍をご祈念申し上げます。また、私自身もこれから益々精進して良き絵が描けるよう頑張りたいと思っております。五十年ぶりの良き体験をさせていただきありがとうございます。

創立百四周年記念式典・記念講演会

令和三年十一月五日(金)の午後、大会議室において創立百四周年記念式典・記念講演会が開催されました。コロナ禍にあつて、昨年度は開催を見送りましたが、今年度はリモートで教室配信という形で実施されました。同窓会本部役員も参加し、講師の宮坂あつ子氏のお話にこれからの未来の風を感じられた時間でした。



講師：宮坂あつ子氏

プロフィール

- ◆1998年(平成10年) 3月 館林女子高校卒業
- ◆2003年(平成15年) 3月 東洋大学法学部卒業 ケーブルテレビ制作・アナウンサー
- ◆2007年(平成19年) 10月～ FM桐生入社
- ◆2014年(平成26年) 結婚
- ◆2018年(平成30年) 6月～ 一般財団法人ジョブラボぐんま 代表理事就任

開校記念式典 そして記念講演会

つなぐ！ひとりの志を みんなの価値に！

青木 美智子 (昭和49年度卒)

小春日和の続く今日この頃、創立百四周年記念式典と記念講演会が母校の大会議室で行われました。コロナ禍がまだ続く中、少人数の出席と教室配信という形で開催しました。

式典は、国歌がCDから流され、校長先生の式辞。館女の祝辞。経験したことのないコロナ禍の生活、その中にある生徒達の勉強や行事への取り組みに頑張っている様子へのエール。最後にPTA会長の祝辞。親として子ども達へ

のエール。そして校歌を流して式典は終わりました。そのあと、記念講演会の始まりです。清楚な和服姿で、本年度の講師、宮坂あつ子氏の登場です。先生は、FM桐生のアナウンサーをされながら、一般社団法人ジヨブラボぐんまの代表理事に就任されています。館女を平成十年三月のご卒業だそうです。

流石、現役のアナウンサーだけあり、ハッキリとしたとても理解しやすい言葉で和やかな雰囲気の中、講演が始まりました。自己紹介から始まり、館女時代の部活動のこと、なんて活き活きとしてフアイト溢れる青春時代だったでしょう。ラジオのアナウンサーになるきっかけは、自室にテレビがなく、ラジオを聴く毎日だったからで、そのお陰で想像力に恵まれたのでしょうか。先生のお話に、ぐんぐん引き込まれて行きました。

その後、ご長男の誕生がきっかけで、ジヨブラボぐんまを数人の人たちと立ち上げ、ビジネス支援活動をスタートさせました。

宮坂先生の前向きな性格と粘り強さで、いろいろな仕事に挑戦され、桐生にあるサテライトスタジオで、桐生を中心に活動しているそうです。様々なジャンルの著名人達とも交流を持ち、アナウンサーとしてだけではなく、世のため人のために力を尽くしています。

先生のモットーは「心のバ イアスを外して、やりたい事をやる!!」人との出逢いを大切に、ビジネス支援活動を中心に社会貢献をすることだそうです。

先生のこれからの活躍を館女の同窓生として楽しみにしています。桐生のサテライトに行く機会がありましたら、先生にお目にかかりたいです。いつまでも、お子様をたいせつに、幸せな家族でいてください。いろいろな経験、そして大切な言葉、ありがとうございます。

生徒のみなさんは、教室で配信された動画で先生のお話しを聴きました。このような形がこれから普通になってい

くのかと思います。早く、コロナ禍が収束して、みなさんと一緒に行事に参加できることを願いながら、過ごした一日でした。



恩師のたより

「か・き・く・け・こ」

坂村 孝 (国語・旧職員)

館林高校から館林女子高校へ昭和四十九年に赴任し、十七年間お世話になりました。

昭和五十四年四月に二十一代校長野木村浩先生が着任されました。私にとっては館高生当時の恩師であり、部活動の顧問として厳しい指導を戴きました。

館女には私の母をはじめ、姉妹から娘まで高校生活を過ごした同窓会会員であったことから、着任早々同窓会事務局を任せられ、金澤登志子先生と一緒に石塚はる会長さんをはじめ役員のみなさんや会員のみなさんと館女友誼祭への参加準備や同窓会総会、観劇会等々のお手伝いをさせて

野木村先生より校長室にて「坂村君、県の五八あかぎ国体強化本部長と約束して来た。館高と本校に漕艇部(平成十年よりボート部と改称)を創ることにした。国体優勝を目指して部員の強化育成だ。君に一切任せるから一緒に頑張ろうな。」と突然のお話に驚き、堀越和佐久先生からは励まされ、新たな険しい道程を決意致しました。



館高では陸上競技部OBでもある私は、部員を指導し、自分では出場出来なかった全国高校総体や国体での活躍の機会を与えましたが、ボート競技は全くゼロからのスタートです。素人は欲張りで怖いもの知らず、為せば成るの心

境でした。

昭和五十五年四月より一期生の部活動を開始しました。城沼での乗艇練習はボートのない半年でした。スポーツの基本は体力造りです。腹筋・背筋・脚力・側筋力を鍛え、トレーニングを積み重ねつつ柔軟性から瞬発力・持久力・握力・巧緻性を磨き、目指すはアスリートです。

館女会館食堂の一角をトレーニング室とし、バーベルやシャフトは月々少しずつ購入し、県漕艇協会から支給されたバック台（ローイングフォーム矯正機）とのサーキットトレーニングを開始しました。校庭の隅に放置されたバスケットボールスタンド二基を活用して「竹昇り」と大型トラックの「古タイヤ曳き」等のインターバル。冬・季トレーニングは、土曜・日曜日に専ら足利織姫神社の石段登りとエンドレスリレーです。

ボートでの乗艇訓練は順調に上達し、「必ず勝てるトレーニング」と約束し励ましてきた通り、翌年（昭和五十六年）十月の関東新人漕

艇大会（戸田）ではA・Bクルーが決勝まで進み、当時の大杉弘PTA会長・宮田澄江同窓会会長はじめPTA役員さんや保護者の声援の中、ワントゥフィニッシュの初優勝を飾りました。

これからが、あかぎ国体へ向かっただけの館女ボート部の真骨頂と、常勝館女を目指し、

同窓生だより

いつでも微笑みを

小佐野

ほほえみを

つねにたたえて教え子は

テレビの中に

思い出語る

特選 名取由子

この短歌は恩師、名取ヨシ先生が私のテレビ出演を見て、新聞の歌壇に投稿され、特選として掲載された作品です。選者は当代一流の歌人土岐善磨さんでした。

遠い日の事ですが「思い出」というテーマでテレビ局の一般募集があり、私が応募し採用されテレビ出演したと

自覚と誇りを失わず驕ることのないことを念じて、「か（感謝）・き（規律）・く（工夫）・け（謙虚）・こ（克己心）」の部訓を部員の合い言葉としました。

振り返ってみれば、運が良かった俺の道。同窓会の皆さまのご活躍、ご多幸をご祈念致します。

芳江（昭和24年度卒）

きの事です。

子どもも小さかったことで

すし、ためらいもあつたのですが、当時一般人のテレビ出演は珍しかったのと、有名な女優草笛光子さんとの対談ということもあつたので出演しました。プロデューサーが拙宅まで来て打ち合わせをして

いるうちに、同級生で友人のピアノリストとして活躍している中屋佳子さんの知人であったことがわかりました。夏の暑い頃で、東京でも冷房車は走っていないのでしたが、

当日はテレビ局の旗を立てた

冷房車で迎えに来てくださいました。出演のことを数人の友人に知らせたところ、学校へ連絡し名取先生も職員室のテレビで他の先生方と見てくださったのです。その後、先生から戴いたお便りには『今日見ました。聞きました。堂々として始終にやかな表情で実に立派でした。あなたの友人から連絡をもらい授業を早めに切り上げ、皆で一緒にとても楽しく拝見しました。』と、ありました。私は何とも言えず、嬉しくて、思いがけずのテレビ対面というわけで愉快に思いました。

あの時いただいたお便りを五十余年経て、最近再読し胸に熱いものがこみ上げてきました。今、私は九十一まで年を重ねてしまい、遠い日の事を

「青春時代に求めたものは老いて豊かに与えられる（ゲート）」

館女に入学後四十年たつて

酒巻

芳恵（昭和58年度卒）

ご縁が有って、同窓会報の原稿を書くことになり、改めて四十年前の自分を思い出してみました。館女の門をくぐったのは、入試の日が初めてでした。電車通学の私は館

を思い懐かしむばかりです。館女の素晴らしいみ教えを受けたと感謝しています。故郷を離れ東京での生活が七十年にもなりました。子どもがPTAには、全国出身の父母が集まっていたのですが、関東の田舎の館女出身の私は最後に落ちることはなかったと自負しております。

日本一の我が母校の校歌、高野辰之作詞の「のぞみにもえつほほえみつ つねに未来に生くるなり」この歌詞のよう、在校生も卒業生も本校のみ教えを守り、のぞみにもえつほほえみつ輝く未来へ向けて進みましょう。

林駅から校門までが遠くて毎日通えるのかと思いましたが、その後は、真新しい革靴を履いての道のりで踵に豆が出来て友人達と半泣きで歩きまわった。靴が足に馴染んできた頃

からは、三十分かかった道のりが友達と語らう楽しい時間に変わって行きました。時に、電車に間に合わなくて必死に走ったのも懐かしい思い出です。今思うと、雨の日も大風の日も休まずに通学したことで忍耐力が付いたのかもかもしれません。

今は違うようですが、私達の頃は、制服の校章にフェルトが付いていて、「ヒヨコの黄色（一年生）、若葉の緑（二年生）、年寄の紫（三年生）」と教えられ、校章のフェルトの色で学年を見分けていました。三年生は、物凄く大人に見えて怖かったです。あくまでも、私の印象なのでお許し下さい。

その後二年生になると、生徒会の先生に「お前、面白いから生徒会長やってみろ」と言われ、二年、三年と二期もやってしまいました。体育祭と文化祭を開催し、文化祭では館林市内を各クラス代表が仮装行列で歩いたりして、町の皆様にも楽しんで頂きました。私のクラスは、新撰組に扮して下駄で歩きました。本当に楽しかったです。また、

黒いストッキングの着用や夏服の制服のデザイン改良など、生徒の要望実現もみんなに喜んでもらえて嬉しかったです。この経験は、人の役に立てる喜びの原点となり、今では私の生きる信条にもなっています。

また、二年三年と担任をしてもらった先生との思い出で、私の胸に深く刻まれたこととがあります。その方はまだ二十代で、私達と近い存在だったので、恋話とかを聞かせてもらったりもしました。英語が堪能な真つ直ぐな先生でした。先生の彼女は、ろうあ者だったので電話で話が出来ず、毎日往復二時間以上もかけて会いに行っていたそうです。そんな話を聞いて、先生はハンデが有る人をそれほどまでに一途に思うなんて凄いなあと尊敬していました。

そんなにも思ってもらえる女性に成ることに憧れもありました。三年生の時、思いが叶い御結婚され、何人かの同級生と共に結婚式にも出席させて頂いたのは今も素敵な思い出です。しかし、運命とは残酷なもので、わずか数年後、同

僚の先生のご結婚式の途中で体調を崩され、若くして亡くなられてしまいました。大学の時、この知らせを聞いて、どうして三十代そこそこで亡くならなければならなかったのだらうかと、命について考えさせられました。命は、突然終わりを迎えてしまうこともあるのだということを実感させられたからです。

人は生きていると色々な壁にぶつかってしまったり、人間関係に悩んだりする時もあります。そんな時は、どうか一人で抱え込まないで欲しいと思います。これは、若くても、歳を取っても同じです。誰かと話すだけでも心は軽くなるものですし、問題を共有することで必ず道は開ける筈です。今はコロナ禍の影響もあり、孤独になりやすい人が増えていると思います。

しかし、こんな時期だからこそ、今一度、周りの人との絆を思い出して下さい。共に生きて行きましょう。学生時代の友達は、いつでも何年経っても、友達のままで。たとえ何年も会っていないとしても、その時の流れを超えてしまい

ます。大切にして下さい。

先生は、いつも全力で私達に接してくれていました。出来ることなら、時を超えて会ってみたかったです。今でも、目をキラキラさせて交換留学生との通訳をしていた先生のお顔は、忘れません。同窓会もなかなか開けるようになりませんが、また十代の自分に戻って同級生や先生方とお話をしたいです。仕事の関係で、色々な年代の方と話す機会が多いのですが、会話の中で同じ館女生だったことが分かる、とても気持ち近くになります。そんな時、同窓って良いなと思います。

私は、子育ても終わって五十六歳に成りますが中身は高校生の頃と同じで、何だか進歩が有りません。きつとこのまま、更に歳を重ねそうな気がします。同窓会会員の皆様、お身体を御自愛頂き健やかに過ごして下さい。

華道部のこと

令和二年度から部活動の再編がすすむ中で、令和二年七月に廃部になった茶道部に続

き、令和三年七月に華道部も廃部となりました。

大正六年四月に館女は開校され、十一年には女子教育の一環として、茶華道の授業が行われていました。昭和十二年の教育課程では時間割の中に華道と茶道の授業がそれぞれありました。正式に部として活動を開始したのは、昭和二十八年度のことで、茶華道部として出発しました。

その頃の茶華道部は、クラブ発表会や文化祭において作品を展示したり、つつじ会館で生花を飾り茶会を開いたりしていました。

女子校ということと時代が花嫁修業に良妻賢母を求めていたということもあり、部員数も二クラス以上の生徒が在籍し、常時二名の先生が指導に当たり活気に満ちていました。昭和五十年度に華道部と茶道部に正式に分かれ、独立した部としての活動が開始されました。

華道部は、昭和三十二年四月から平成六年三月まで川村すみる先生が、平成六年四月から廃部となりました令和三年七月までを斉藤静江先生が

ご指導してくださいました。館女の華道部は龍生派で、平成十年ころまでは、入学式や卒業式の式場の盛花の生け込みや校長室・玄関にも作品を飾っていました。時代の変化と共に式場の盛花は松やアレンジに代わり、生徒が生けることはなくなりましたが、普段の活動で玄関に作品を飾ることは廃部になるまで続けられました。

平成七年に交換留学でニュージーランドのプケコへ高校の生徒達と一緒にお花を生け、華道を通して交流し、日本文化を伝えました。

六十七年間という長い華道部の歴史が終わってしまったことは、本当に残念なことです。華道にしても茶道にしても日本の伝統文化です。その体験が身近なところで出来る機会がなくなってしまうました。多くの華道部の卒業生の中には、その後お稽古を続けられている方、他の流派に挑戦された方、また、ご自身で新しい流派を立ち上げて、家元として世界にまで進出された方など、お花と一緒に生きていられる方が沢山います。



令和二年の夏、昭和三十二年卒の松月由里子（旧姓寺島）様より、母校箏曲部へお琴を一張、ご寄付いただきました。丁度、箏曲部の生徒

**同窓生より
後輩にエール!!**

生活の中で、お花を生ける楽しみを感じていただき、お花を愛でる心の余裕を持つていただけたら素敵なことだと思います。

（お詫びと訂正）
昨年発行されました同窓会報「茶道部のこと」の中で、茶道部と華道部が分かれた年度が、昭和五十一年度とありましたが、昭和五十年度の間違いです。心よりお詫びと訂正を致します。

今年度、同窓会の皆様にご支援していただいたことで、コントラバス1台と、マンドラ・テノレ1台の購入、及び学校所有の楽器を修理させていただきました。同窓会の

達が全国文化祭へ参加するための演奏を録画していただきました。大先輩からの激励のお言葉と学生時代のお話しをしていただきました。

コロナ禍の中でも生徒達は、勉強に部活動に頑張っています。これからも同窓生の応援を届けたいですね。松月様、ありがとうございます。

楽器購入のお礼と活動報告

マンドリン・ギター部
顧問 谷津 成一
本校マンドリン・ギター部29名は、2021年7月29日（木）に大阪府泉佐野市のブノ泉の森ホールにおいて開催された令和3年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールに出場し、優良賞をいただくことができました。いつも多大なご支援をくださいます。心より感謝申し上げます。

皆様には大変お世話になり、感謝の念に堪えません。お陰様で、生徒は毎日気持ちよく練習に励んでおります。令和4年度は6月の定期演奏会と、2月の県大会で上位の成績を残し、全国大会に出場することが部員の目標になっております。今後とも、引き続きご指導いただければ幸いです。ありがとうございます。



たけむら あやき
竹村 文希 (令和3年度卒)

竹村文希さんが書いた書を学校に寄付してくださいました。

北校舎2階生徒会室前に飾られています。学校にお越しになった際にはぜひご覧になってください。

プロフィール

2019年 第43回全国学生書写書道展覧会 公募の部 日本学生公募大賞 (全国一位)

2020年 第35回全国学生書き初め展覧会 硬筆の部 文部科学大臣賞 (全国一位)
第44回全国学生書写書道展覧会 公募の部 松尾芭蕉記念賞 (全国一位)
第36回全国硬筆コンクール 高校生の部 文部科学大臣賞 (全国一位) 他



皆様には大変お世話になり、感謝の念に堪えません。お陰様で、生徒は毎日気持ちよく練習に励んでおります。令和4年度は6月の定期演奏会と、2月の県大会で上位の成績を残し、全国大会に出場することが部員の目標になっております。今後とも、引き続きご指導いただければ幸いです。ありがとうございます。

- 【転入】**
- 猪瀬 康夫 教頭 板倉高等学校
 - 森口 秀徳 数学・情報 吾妻中央高等学校
 - 林 和弘 地歴・公民 新採用
 - 鶴田 混也 数学 新採用
 - 堀本 一郎 英語 太田女子高等学校
 - 中村 悠理乃 国語 館林商工高等学校
 - 木村立夏子 地歴 太田東高等学校
 - 田島紗和子 理科 桐生高等学校通信制
 - 田沼 正義 司書 館林商工高等学校
- 【転出】**
- 萩原 悟 数学 萩野 葉子 教頭 西邑梁高等学校
 - 松崎 健一 数学 桐生高等学校
 - 齋藤 純子 社会 太田女子高等学校
 - 齋藤 純子 英語 太田女子高等学校
 - 齋藤 純子 英語 太田女子高等学校
 - 谷津由香里 理科 伊勢崎工業高等学校 (新採用)
 - 小川 彩音 司書 太田女子高等学校
 - 酒巻 千織 国語 太田東高等学校
- 令和四年度 人事異動**

令和4年度入試の合格校等一覧

【四年制大学】 〔国公立大学〕

学校名等	分類	合格者数
群馬	国大	2
茨城	国大	1
群馬県立女子	公大	4
群馬県立県民健康科学	公大	1
高崎経済	公大	1
前橋工科	公大	1
長野県立	公大	1
島根県立	公大	1
国公立大学計		12

〔私立大学〕

学校名等	分類	合格者数
共愛学園前橋国際	私大	4
桐生	私大	8
群馬医療福祉	私大	2
群馬パース	私大	5
高崎健康福祉	私大	9
東京福祉	私大	5
足利	私大	4
国際医療福祉	私大	1
獨協医科	私大	2
白鷗	私大	3
跡見学園女子	私大	3
埼玉学園	私大	2
十文字学園女子	私大	1
城西	私大	5
女子栄養	私大	3
西武文理	私大	1
東京国際	私大	1
東都	私大	7
獨協	私大	12
日本保健医療	私大	1
人間総合科学	私大	1
文教	私大	15
明海	私大	2
江戸川	私大	1
神田外語	私大	2
敬愛	私大	1
城西国際	私大	2
中央学院	私大	1
麗澤	私大	1
和洋女子	私大	1
桜美林	私大	1
大妻女子	私大	2

学校名等	分類	合格者数
杏林	私大	2
駒澤	私大	1
産業能率	私大	1
実践女子	私大	2
昭和女子	私大	3
白百合女子	私大	1
成蹊	私大	4
専修	私大	1
創価	私大	1
大東文化	私大	8
中央	私大	1
帝京	私大	1
帝京科学	私大	2
東海	私大	1
東京家政	私大	4
東京家政学院	私大	1
東京工科	私大	1
東京国際工科専門職	私大	1
東京未来	私大	3
東京理科	私大	1
東洋	私大	5
東洋学園	私大	1
日本	私大	3
日本女子	私大	2
法政	私大	1
明星	私大	1
目白	私大	5
立正	私大	6
神奈川	私大	1
洗足学園音楽	私大	1
フェリス学院	私大	1
京都芸術	私大	1
私立大学計		179
四年制大学計		191

【就職】

企業名	分類	就職者数
就職計		0

【短期大学】

学校名等	分類	合格者数
青英短大	私短大	1
桐生大短大部	私短大	1
高崎商科短大部	私短大	3
足利短大	私短大	1
國學院大學栃木短大	私短大	2
佐野日本大学短大	私短大	3
川口短大	私短大	1
大妻女子大短大部	私短大	1
目白大短大部	私短大	1
山野美容芸術短大	私短大	1
短期大学計		15

【専修各種学校】

学校名等	分類	合格者数
太田高等看護学院	専門	5
館林高等看護学院	専門	8
太田医療技術専門学校	専門	6
太田情報商科専門学校	専門	2
大泉保育福祉専門学校	専門	1
群馬動物専門学校	専門	1
中央医療歯科専門学校	専門	1
中央情報経理専門学校	専門	1
中央スポーツ医療専門学校	専門	1
東日本製菓技術専門学校	専門	1
東日本デザイン&コンピュータ専門学校	専門	1
足利デザイン・ビューティ専門学校	専門	1
TBC学院	専門	1
獨協医科大学付属看護専門学校	専門	1
大宮歯科衛生士専門学校	専門	1
大宮ビューティ&ブライダル専門学校	専門	3
深谷大里看護専門学校	専門	1
神田外語学院	専門	1
国立音楽院	専門	1
コーセー美容専門学校	専門	1
資生堂美容技術専門学校	専門	2
デジタルアーツ東京	専門	1
東京こども専門学校	専門	1
東京デザイナー学院	専門	1
東京メディカルスポーツ専門学校	専門	1
東放学園	専門	1
東洋美術専門学校	専門	1
日本工学院八王子専門学校	専門	1
専修各種学校計		48

◆ ◆ ◆
編集後記
 ◆ ◆ ◆
 昨年度から母校に赴任し、同窓会に携わっております。卒業してから長い時間が経ちましたが、当時と変わらないものに伝統の重みを感じ、変わったものに新鮮味を感じました。チャールズ・ダーウィンは変化できるものが生き残ると述べています。進化する館林女子高校を、同窓生として、一教員として支えていきたいと思います。

(記 下城)

令和4年度 行事予定

令和4年

4月8日(金) 入学式
本部役員会
開校記念日

5月14日(木) 開校記念日
本部役員会
本部役員会
同窓会総会

6月4日(土) 同窓会総会
資料送付、会報発行

6月下旬 関東大会出場後援
7月中旬 全国大会出場後援

11月2日(火) 本部役員会
創立百五周年開校記念式典・講演会 稲葉千秋 昭和59年度卒

令和5年

1月初旬 本部役員会(同窓会入会式・今後の予定について)

2月28日(月) 同窓会入会式

3月1日(火) 卒業証書授与式

*今年度の総会につきましては、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となりました。総会資料の発送をもって総会に代えさせていただきます。
 *各部活動の定期委員会・発表会・作品展等への後援につきましては、今年度も例年通り補助いたします。
 *新型コロナウイルス感染症対策のため、各部の行事日程は変更されることもあります。